

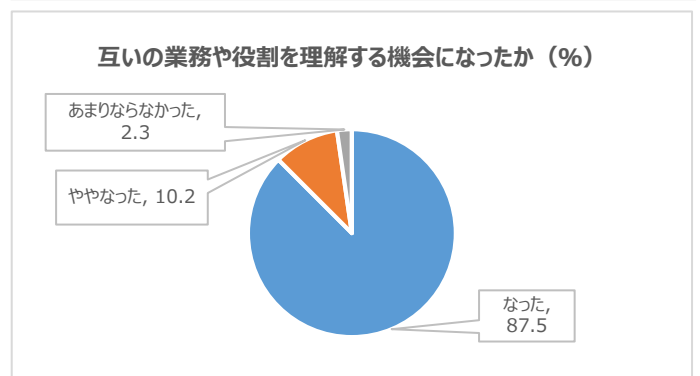
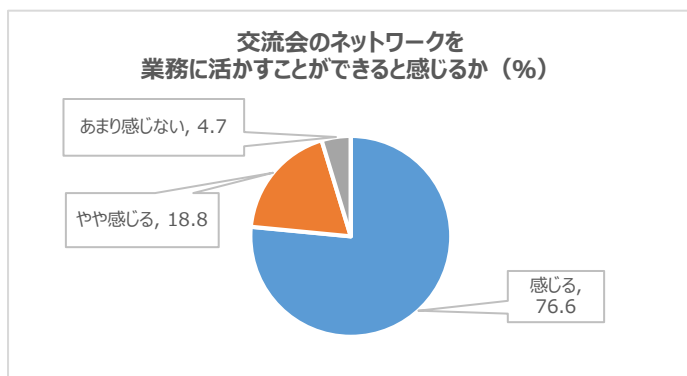
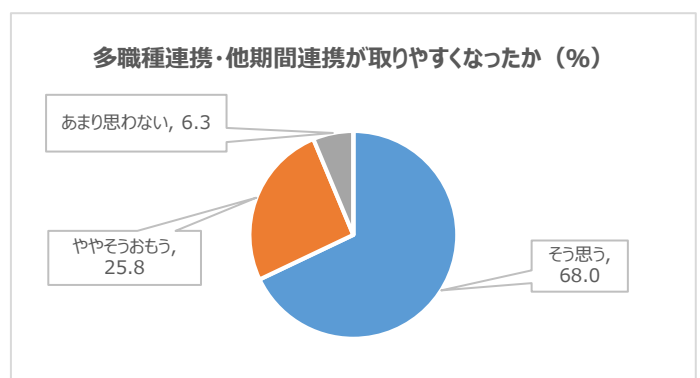
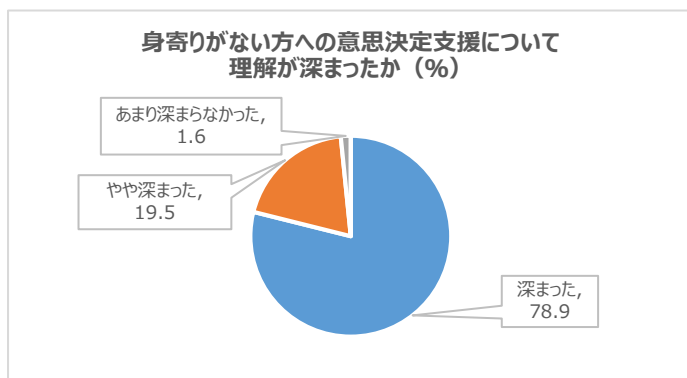
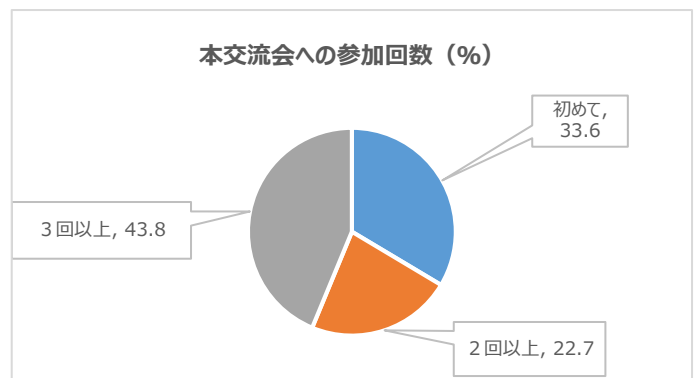
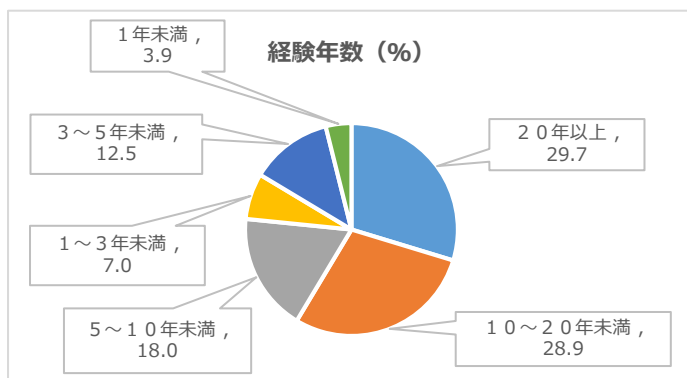
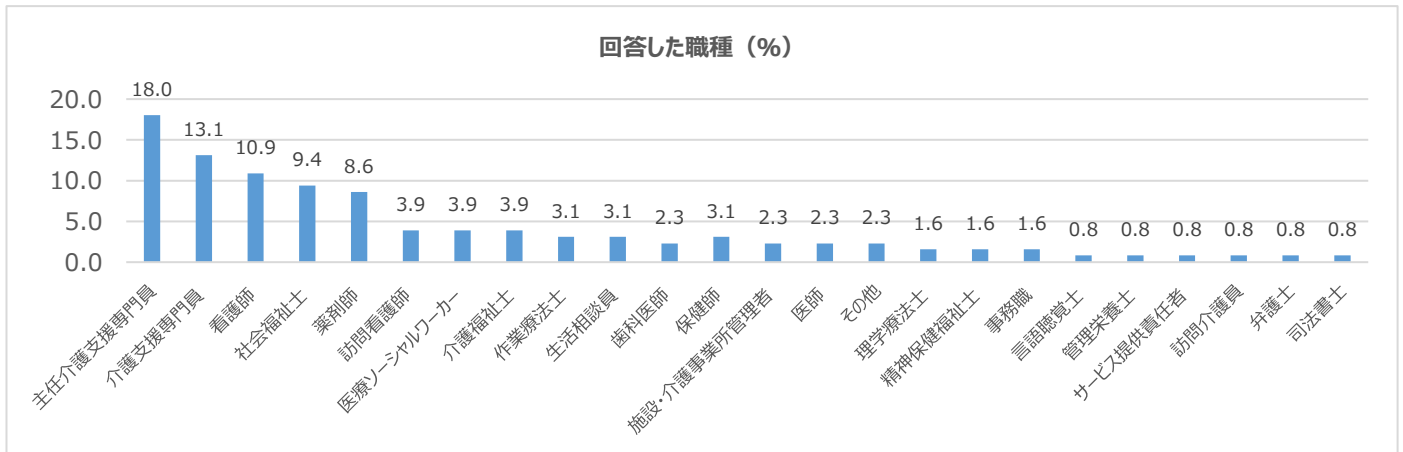
令和6年度 顔の見える関係づくり交流会 アンケート結果

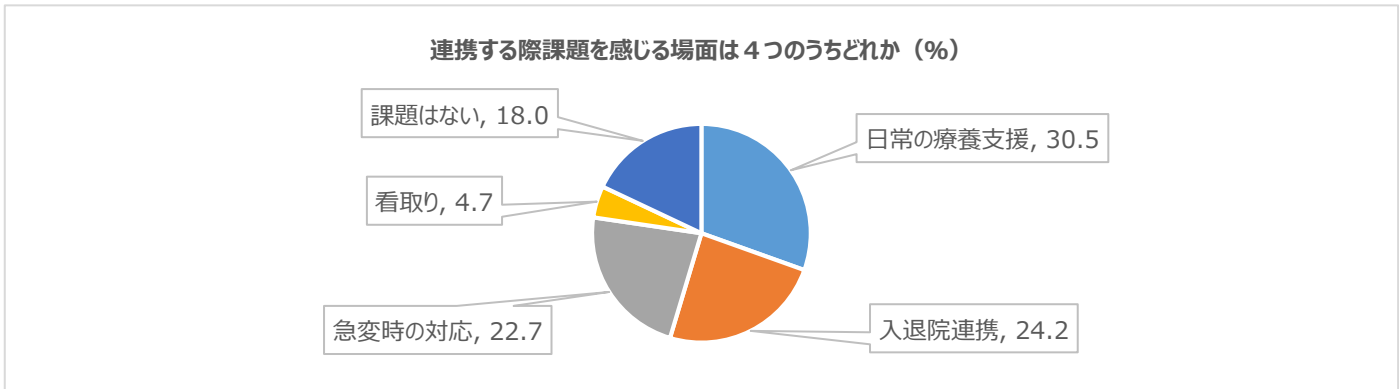
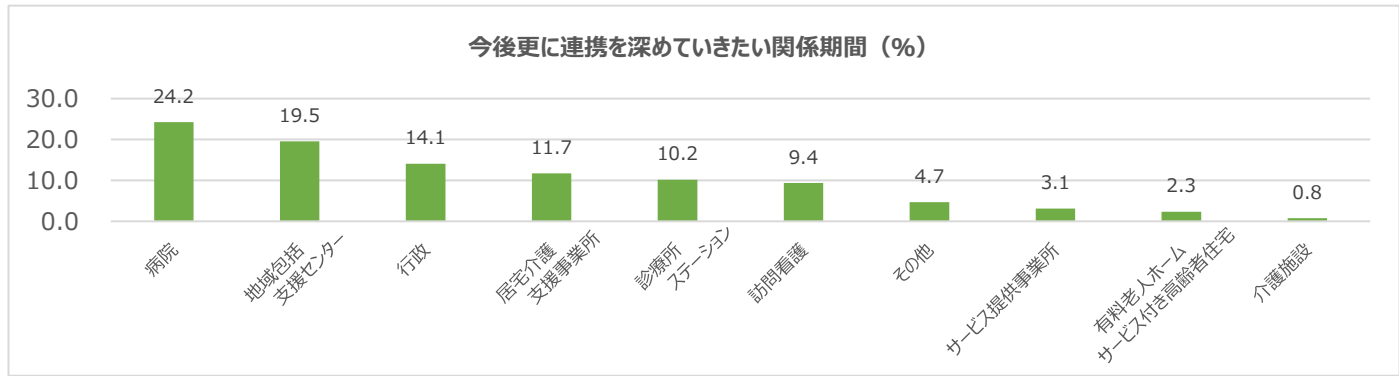
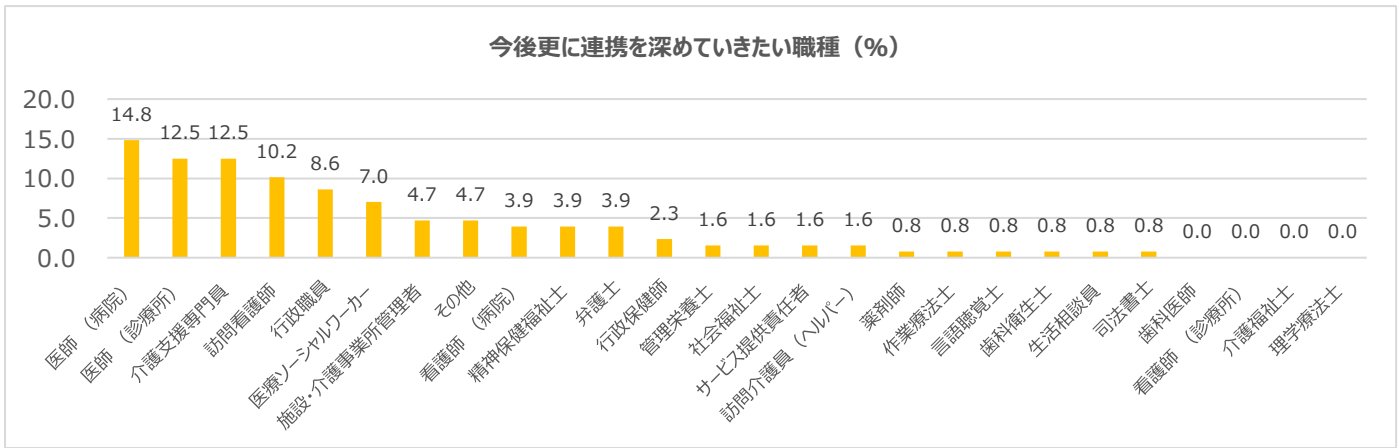
開催日：令和6年7月16日（火）18時～20時30分

場所：山梨県立図書館 イベントホール

参加者数：128名

アンケート回答率：71.9%





連携する際課題を感じる4つの具体的な場面 (※一部抜粋)

【日常の療養支援】

- ・職種によっては、他の職種から判断を委ねられやすい傾向を感じる。知識や判断にも限界があるため、チームで一丸となって考える場がタイムリーに設けられると良い。(訪問看護師)
- ・入院や施設入所等の転換期は、支援関係者が揃って状況確認をすることが可能だが、日常の支援時には連携が難しい。(社会福祉士)
- ・多くのケースでケアマネジャー、地域包括支援センターが中心になり連携がはじまることが多いが、本人の状態において、どの職種がキーになるかしっかりと選定する必要がある。(薬剤師)
- ・本人が日常で生活している時は、連携の必要を感じない時もある。最初から顔が見える関係を構築できるようにしていきたい。(介護支援専門員)
- ・常日頃から本人と関わる人たちと連携していく必要がある。(司法書士)
- ・本人が支援の必要性を感じていない中で、どのように関わりサービスに繋げていくかが難しい。(理学療法士)

【入退院連携】

- ・退院後の連携での連絡方法について課題を感じる。また、身寄りのない方の支援については難しさを感じる。（看護師）
- ・入院中の情報は医療目線なことが多く、「どこを目標に関わってきた」などの内容がなく、在宅で支援を開始する際に 1 からとなるケースがある。（言語聴覚士）
- ・退院日が急に決まることがあり、在宅生活にもどる準備の打ち合わせが家族と十分にできない時がある。（介護支援専門員）
- ・退院時カンファレンスに声を掛けてもらう頻度は増えたと感じるものの、医療機関によってはまだ地域に連絡がないケースもある。（保健師）
- ・病院で受け入れはできても退院先(受け入れ)の支援に困窮することが多い。（医療ソーシャルワーカー）
- ・病院、施設連携においては、介護報酬改定に沿った調整ができていない状況がある。その課題解決においては、更なる意識調査や具体的取組を実践していく必要がある。（事務職）

【急変時の対応】

- ・誰がどこまで対応するのか。病院側から求められる内容と専門職としての業務範囲が合致しないケースが多く、「狭間」の課題解決が困難である。（精神保健福祉士）
- ・家族が代理意思決定をする場面が多くかわる中で、ACP がもっと広がるのが課題と感じる。（看護師）
- ・急変時にかかりつけ医のアドバイスを受けたいがタイミングが難しい。（介護福祉士）
- ・夜間や週末の転倒時や、体調不良時の連絡が本人から入った際の連絡先や相談先に困る。（サービス提供責任者）
- ・緊急時の細かな体制や予後予測が明確になっていないこともあり、緊急時の対応が不十分になってしまう。（介護支援専門員）
- ・救急搬送になった時など、自分の判断は合っていたのか、知っている情報が少ないと不安になる。（訪問看護師）

【看取り】

- ・独居の死亡診断後の死亡届において行政担当者と連携のうえ、代理人を選定する必要があると感じる。（医師）
- ・時間が限られた状況で、とても深刻な内容を煮詰めて、結論を出さなくてはならないこと。（作業療法士）
- ・状態が悪いまま入院して、想いを確認できないまま終末期になってしまう。（医療ソーシャルワーカー）
- ・本人と家族の意向の共有が難しい。（介護支援専門員）

その他、ご意見・ご感想（※一部抜粋）

- ・今回とても素晴らしい経験になりました。ありがとうございました。
- ・思ったより、堅苦しい雰囲気がなく参加しやすかったです。
- ・多職種の方たちと、自分が働いている場所で困難に感じていることや、その職種の立場ならどう対応するのかなどと、活発な意見交換ができて楽しかったです。
- ・初めての参加でしたが、他職種の方々の視点の違いが具体的に聞いてとても勉強になりました。
- ・今回の事例では包括に意見を多く求められる結果となった。今後は多くの方が意見交換できると良い。
- ・改めて ACP について考えさせられた。まずは自分の家族からと両親が意識清明なうちに家族情報や医療についての意向を確認してみようと思っている。また民間同士のつながりは勿論だが課を超えた連携が甲府市ではあまりスムーズではない印象。
- ・今回のグループが、多職種とは言えないグループだったため、もっと多職種との交流を持ちたかった。生保担当の職員も入ってくると良いと思った。
- ・司法書士さんが参加されていたが、どうしても介護や医療の話が多くなってしまった。司法書士の支援内容についてもう少し聞きたかった。
- ・この交流会が今後も継続して開催されることを希望します。
- ・保険者がイニシアチブをとって進めないと、どうしても上位職種に従わざるを得ない状況になることが想定できる。例えば、医師・弁護士の意見に重みがあるのはわかるが、毎日行き来があり、在宅生活の面倒を見ているような近所の人や民生委員から細やかな意見を集約し、それをスムーズに繋げていくための工夫は絶対に行うべきだと考える。